

**令和 4 年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書**

団体名 吉野ヶ里町（都道府県：佐賀県）

1.当該地域の情報(令和 5 年 1 月現在)

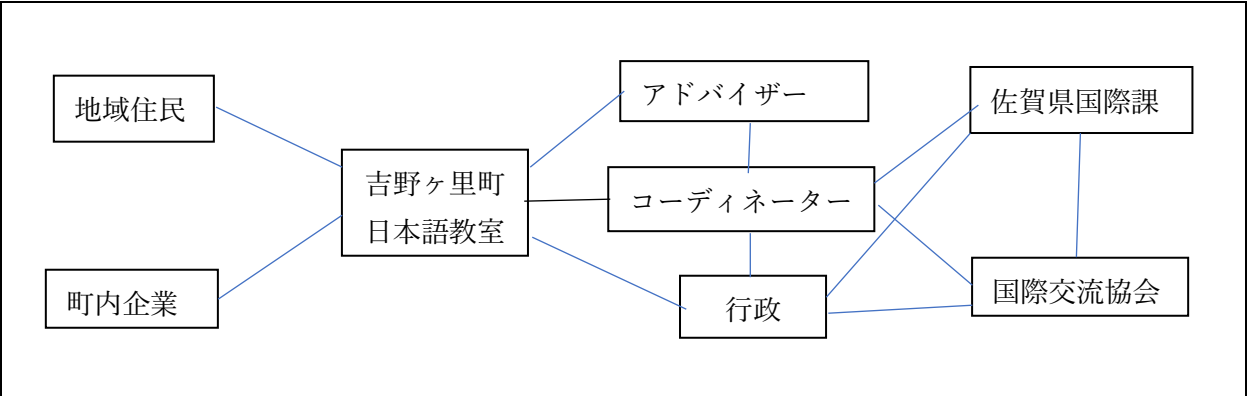
地域の課題	本町の在住外国人数は、平成 30 年 12 月 31 日現在で 113 人であったが、令和 5 年 1 月 1 日現在では 197 人と増加傾向にある。現在町内の人口の約 1.2%を占めており、県内でも比較的高い割合だ。外国人住民のうち 58.3%が技能実習や特定技能の資格であり、町内企業においても今後さらに実習生受け入れが増えると予測される。技能実習生はほとんどが実習生受入企業の周辺に居住しており、地域住民とも顔を合わせる機会があるものの交流はない。そのため受入企業周辺の自治会から生活ルールについての問い合わせや苦情も少ないが届くようになった。技能実習以外の在留資格の外国人については町内各地に居住しており、地域における孤立も懸念される。ゴミ出しや交通マナーなどの問題や、防災や病院受診に難しさや不安があるが、生活する上で地域住民との関わりや支え合いがほぼないのが課題である。また、地域住民の外国人住民に対する理解が不十分なのも現状であり、文化や宗教、生活習慣の違いなどに理解を深め、日本人・外国人に関わらずすべての住民が地域で生活する者として共生していけるように環境を整えていくことも課題である。 行政においても、国籍や文化の多様化に伴い言語面での伝達等が課題だが、人的・財政的にも困難である。
在住外国人数 外国人比率	197 人 1.2%
在住外国人 の状況	【主な国籍と人数】ベトナム 89 人 中国 24 人 ミャンマー20 人 インドネシア 16 人 フィリピン 12 人 韓国 12 人 ネパール 5 人 カンボジア 5 人 台湾 3 人 マレーシア 2 人※上位 10 件まで 【在留資格】技能実習 85 人 特定技能 30 人 永住者 24 人 技能・人文知識・国際業務 12 人 家族滞在 12 人 日本人の配偶者等 8 人 特別永住者 8 人 特定活動5人 介護 4 人 定住者 3 人※上位 10 件まで 【滞在年数・在留期間などの状況】 永住者と技能実習生が多い。永住者は滞在の長期化が傾向として見られる一方、技能実習生も増加しているため、このことから長期滞在者と短期滞在者の双方が増加している傾向が見られる。
在住外国人の 日本語教育の現状	これまで町内で在住外国人に対する日本語教育が行われていたことはなく、そのような活動を行う組織や団体もない。

2.事業の内容

本プログラム取組年数	2 年目			
事業の目的	これまで在住外国人が地域で日本語を学習する環境がなかった町内において「地域日本語教室」を設置することは、外国人住民の日本語学習に役立つだけでなく、地域住民と外国人住民の交流拠点となり多文化共生理解促進にもつながると考える。 「外国人住民が生活する上で地域住民との関わりや支え合いがほぼないこと」、「地域住民の外国人住民に対する理解を深め、日本人・外国人に関わらずすべての住民が地域で生活する者として共生していけるように環境を整える必要があること」という地域の課題を解決するため、国籍等の背景に関わらずすべての住民が円滑に地域生活を送れるよう、日本語教室という場を活用して相互理解を促進する取り組みを行う必要がある。			
事業の概要	日本語教育の推進を図り、町内の在住外国人が地域住民と気軽に交流でき、地域のルールや異文化の啓発を双方向から行うことで理解を深める環境づくりにつなげた。また、近年自然災害が頻発し大きな被害も発生している。地域災害や日本の災害対応に慣れていない外国人が増える中で、受入企業とも連携を強化する必要があると感じている。そのためには平時からの関わりが重要であると考えており、地域で定期的に継続して行われる地域日本語教室の場を地域の安心安全にもつなげていきたい。 このような「地域日本語教室」を、日本人も外国人もすべての人が「生活者」として対等な立場で話せる場とし、町の課題について一緒に考え、取り組む関係性を作ること、だれもが地域の担い手として活躍できる場としたい。			
事業の対象期間	令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	・R3.6.22 アドバイザー会議(オンライン) ・R3.9.28 コーディネーター会議 ・R3.12.8 にほんごすいもく日本語教室視察 ・R3.7.31 神崎市日本語教室視察 ・R3.11.21 みやき町日本語教室視察 ・R4.2.24 アドバイザー会議(オンライン)			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	吉原 千恵美	地域日本語教室「にほんごすいもく」		人材発掘・育成、コーディネート全般
	平 美穂	佐賀県国際交流協会		人材発掘・育成、コーディネート全般
	柿木 温子			人材発掘・育成、コーディネート全般
	福光 紗弓	吉野ヶ里町役場	会計年度職員	人材発掘・育成、コーディネート全般
	小池 明日香	吉野ヶ里町役場	主事	人材発掘・育成、コーディネート全般
	中島 麻希	吉野ヶ里町役場	主任主事	人材発掘・育成、コーディネート全般
	岩本 智子	吉野ヶ里町役場	広報・協働係長	人材発掘・育成、コーディネート全般
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	伊東 祐郎	国際教養大学専門職大学院日本語教育実践領域	教授	継続・新規(2年目)
	春原 直美	(公財)長野県国際化協会	副理事長	継続・新規(2年目)
	深江 新太郎	NPO 多文化共生プロジェクト	代表	継続・新規(2年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制			
	所属(担当課)	職名	担当者名
	吉野ヶ里町役場 財政協働課	主任主事	中島 麻希
	吉野ヶ里町役場 財政協働課	係長	岩本 智子

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体
との連携体制

地域住民

町内企業

学習者家族

自治会

吉野ヶ里町
日本語教室

行政

小中学校

町 住民課
町 こども保健課
町 社会教育課
町 財政協働課

佐賀県国際課

国際交流協会

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
町内企業 約 15 社			
吉野ヶ里町役場	住民課		
吉野ヶ里町役場	こども保健課		
吉野ヶ里町役場	社会教育課		
吉野ヶ里町役場	財政協働課		
佐賀県庁	国際課		
佐賀県国際交流協会			

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 4月			
令和4年 5月			
令和4年 6月	コーディネーター会議 アドバイザー会議	・事業計画の検討	アドバイザー会議(オンライン) 事業計画について検討
令和4年 7月			
令和4年 8月	企業アンケート 職員研修	・日本語教室視察(教室型) ・職員研修の案内・準備・実施 ・アンケート作成、依頼	★アドバイザー会議 ・職員研修 ・日本語教室に向けた活動について
令和4年 9月	ニーズ調査	・企業訪問	
令和4年 10月	コーディネーター会議	・ニーズ把握 ・教室の方向性について話し合い	
令和4年 11月	コーディネーター会議	・他町のコーディネーター会議参加 ・日本語教室視察(交流型)	
令和4年 12月	コーディネーター会議	・広報・インスタ・Facebook等で「やさしい日本語交流会」広報 ・「第1回やさしい日本語交流会」担当決め、資料作成	
令和5年 1月	コーディネーター会議 「第1回やさしい日本語交流会」	・コーディネーター会議 ・企業訪問 ・小中学校へのチラシ配布 ・二十歳の集いでチラシ配布 ・プレスリリース ・「第1回やさしい日本語交流会」資料作成・開催当日業務 ・アドバイザー会議	・アドバイザー会議(オンライン) ★アドバイザー来訪 第1回教室視察 ・アドバイザー会議(ふりかえり・アドバイス)

令和 5 年 2 月	コーディネーター会議 「第2回やさしい日本語交流会」	・コーディネーター会議 ・企業訪問 ・「第2回やさしい日本語交流会」資料 作成・教材準備・ ・「第2回やさしい日本語交流会」開催 当日業務	
令和 5 年 3 月	・コーディネーター会議	コーディネーター会議 「第3回やさしい日本語交流会」準備・ 資料作成 次年度の活動計画について	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	やさしい日本語交流会(仮)（今後参加者と決める予定）						
外国人参加者について	[国籍]マレーシア 1 名、ベトナム 3 名、カンボジア 2 名、エクアドル 1 名、 [属性]技能実習生や日本人の配偶者等が主な対象						
参加者数 (内 外国人数)	外国人参加者約 7 名 日本人参加者約 20 名(サポーターになってもらえるかは今後の活動による) コーディネーター7 名						
開催時間数	総時間4時間			内訳		2時間 × 2回	
目標	日本人と外国人が楽しく交流しながら自然とやさしい日本語を身につけ日本人・外国人の分け隔てない間柄になれる会						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2023 年 1 月 29 日(日) 13:30～15:30	2	中央公民館	7	お正月	・主催者あいさつ ・自己紹介 ・「やさしい日本語」とは ・お正月をテーマに交流 ・ふりかえり 発表 ・アンケート	日本語指導者 0 名(コーディネーター7 名) サポーター20 名
2	2023 年 2 月 26 日(日) 13:30～15:30	2	駅コミュニティホール	3	ごみ出し	・主催者あいさつ ・自己紹介 ・「やさしい日本語」とは ・ごみ出しをテーマに交流 ・ふりかえり 発表	日本語指導者 0 名(コーディネーター7 名講師 2 名) サポーター17 名

【主な活動】



1 月 29 日やさしい日本語の学習



1 月 29 日 ふりかえり・発表
ベトナム人と日本人



2 月 26 日 ごみ分別のゲームの前に、やさしい日本語で
ごみ出しの説明

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	学習者の定着。サポーターの確保。 広報活動を確実に行う。
--------------------	---------------------------------

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
職員研修	2022 年 8 月 3 日	アドバイザーによる役場職員への研修 【内容】(1回 3 時間) 第 1 部 地域の日本語教育の役割と可能性(担当:伊東祐郎) 第 2 部 「多様な文化の人たちとの共生について」(担当:春原直美)

5. 今年度事業全体について

進捗状況	月に1回ではあるが、外国人と日本人が繋がる場ができた。 今後も広報活動をしっかりやって、長く継続していく。
事業推進にあたり問題点と対応策	参加者が不確定であること。根気強く、広報と毎月の企業訪問を継続。 外国人の要望を聞きながら、型にはまらず続けていきたい。 日本語を教えたい(教えている)人の参加もあったため、サポーターとの関係を構築すること。
成果	「やさしい日本語交流会」(日本語教室)を開催することができた。 町内企業を訪問したことで、関係づくりをすることができた。
地域の関係者との連携による効果	他市町(先進地)の視察や、情報を共有することで今後の課題が明確になる。 企業の実情や思いを聞くことができた。
コーディネーターの主な活動	① ニーズの調査(20H) ② 体制整備のための調整(10H) ③ 人材育成のための調整(3H) ④ 日本語教室開設及び運営のための調整(35H) ⑤ 教材作成に向けた調整(35H) ⑥ その他(？H) (具体的な内容: 広報紙掲載・Instagram・Facebook 投稿・プレスリリース・ 主要施設へのポスター掲示・チラシの配架・研修会への参加など)
アドバイザーの主な助言	・コンセプトを持って取り組んでいくこと。 ・外国人も日本人も役割を持つと活力がでる。 ・参加した人と連絡を取り合うためのネットワークの構築。定期的に研修会を開催することの必要性。町の動きを配信するなどの継続的なアプローチが必要。 ・「来続けたい」と思える理由がないと続かない。他県の事例から言葉が教えあえる環境があると、語学を勉強したい人たちが残ってくれること。 ・サポーターの役割を共通認識しておくこと。 ・交流会後はその都度改善要望等も吐き出してもらう。良い点・改善点、どちらも聞く。 ・地域日本語教育の役割について。
今後の課題	・ニーズを拾いながら、継続して続けていくこと。 ・外国人・日本人の参加者の確保(ネットワーク構築)。 ・サポーターの養成。 ・技能実習生が多い本町において、住民・企業の双方にとって必要・有効となるよう、企業の理解と協力を得てと連携していくこと。 ・住民主体の会(教室)となるような仕組みを作り、住民自ら共生について考え、「ずっと来たい」と思えるような教室づくりへとつなげること。
今後の予定	月1回の交流型の開催を行い、参加者の意見を取り入れつつ継続していく。 町の行事(祭り・スポーツ大会)などに参加し、外国人の地域理解・地域交流促進を図る。 町民への多文化共生への意識の醸成を図り、日本人サポーターとしての教室参加を促す。 次年度からの運営に向けて補助団体として設立する準備をする。